

令和6年4月10日開催 新中区配水池新設工事説明会 質疑応答	
質疑応答(令和6年4月10日 2回目)	
当日の質疑	当日の回答
確認事項でちょっと聞きたかったんですけども、このフロー図とかを見さしてもらっていったときに、ちょっと思ったんですが、今あるのが中・高・低という配水池があるわけですけども、新中区配水池が出来上がった際には、このフロー図で見ると低区配水池は飛び越えちゃったりして、中区のほうも載っていないんですけども、既存にある低区と中区の配水池は廃止という考えで、よろしいでしょうか。	はい。そのとおりなんですけども、まだ休止という扱いで、すぐ取り壊すとかっていう形まではいってないんですけども、休止する考えにはなっております。
追加の質問なんですけど、もしもで仮に出来上がったときに、まだ既存のほうは残しておくということは、水ってやっぱ、使っていないと困るんですけど、ずっと少しずつ使いながらも維持していくということですか。	新しいのができましたら、低区と中区には水は入れないんですよ。それでコストが余計、維持管理がかかりますので、新しい新中区に一括、水を全部入れて、そこから配水するという形で。出来上がれば、今の低区と中区は、一旦お休みというか、そういう形になります。
お休みですね。住民としては、やっぱりひらふスキー場のあそこのメインにあるところっていうのは、すごい価値のあるところなので、もし別で有効活用できるようになるよって言うんだったらそれはそれでいい話だと思うんですけども、そこは壊さないでずっとまだ、持っていて、ここに新しいものをつくるということと理解していいでしょうか。	出来てしまえば1回ですね、水はきれて、また今後伸びてきたらどうなるかっていうのを想定に入れなきゃないんですけども、ここはちょっと今まだ判断ができてないのは事実なんですよ。取りあえず、新しいほうにできて、少しは余裕は欲しいなっていうところがあって、またこれからの計画を見直してですね、これもどうなるかというのも今後検討していかなきゃならないとは思います。
質問というわけではないんですが、ちょっと細かいところまで、ちょっと3点ほどちょっと意見を述べさせていただきます。最後に御説明を頂きました3月26日の説明会の議事録といいますか、質疑応答のメモの町からの補足回答というところで、御説明を頂きましたけれども、冒頭のところで今公になっております令和3年度に策定をされた。経営戦略の中で、令和13年度に1日最大給水量6406立米となってるんですが、今の経営戦略って、もともとは令和3年から令和12年までの10年間という期間になってませんでしょうか。なので、経営戦略の中には、令和13年記載って一切出てこないんですね。ですから、令和12年の6310っていう数字は覚えてるんですが、この令和13年の一日最大給水量6406って、多分今の経営戦略に出てこないと思うんですけど、ていう、ちょっとそれは細かい点でございます、すいません。そのあととのところで、そういったことで今の経営戦略組まれてますよ。ただ最近の社会情勢、当地区の開発の進度などを勘案し、令和7年度から8年度にかけて見直しをしますというお答えなんです、その横にですね当日、課長にお答え頂いたかと思うんですが、経営戦略自体は10年間の計画だけれども、いろいろな周辺の状況の進度などを考えたときに、見直しは絶対に必要だという御回答頂いてます。やはり見直しが絶対必要なのであれば、令和7年度っていうと来年ですから、まあすぐ来るでしょうっていう話もあるんですが、ここはできるだけ早く、極端なこと言えば、今年度から見直しを進めていただくことが、結果的には、先ほど説明の中にありましたその中区、低区配水池をどうするんだと。この新中区ができた後どうするんだと。見直しの中で、やっぱり給水量が増えるよねということであるならば、やはり、低区配水池はやっぱり使ったほうがいいんじゃないかとかっていうことにもなりかねないかと思うんです。そういった意味で、見直し作業を早くすることで、結果的に手戻りなのか、あとはハード的あるいは資金的なロスを防ぐことになるのかなあというふうに思いますので、この見直し作業につきましては、一刻も早くやっていただくのがよろしいかというふうに、ちょっと素人考えですが思うところであります。それとあともう一つ、その見直しについては、いろいろその経営戦略の中での水道設計だったりとかっていう事の見直しをされると思います。その見直しに向けての作業スケジュールで具体的な項目、どういったところを見直すのかというのを、今日じゃなくても結構です、教えてければなというふうに思います。端的に申しますと、今の経営戦略の中では、幾つか16の開発計画について盛り込んでます。ただ、令和2年度以降の新たな開発計画は盛り込んでないということなので、令和2年以降の開発について盛り込むという作業をされるのではないかなというふうに思います。ですので、具体的にはそういった今度盛り込むべき新規開発についての、どんなタイミングでどんな要件だと、それを盛り込むべき開発だというふうに認識をされるのかというのを知りたいというところでございます。といいますのも、基本的には開発者の立場に立てば、今予定をしている開発があるんだけど今の経営戦略の中には盛り込まれてないなと。となると、これをいつまでに、どのぐらいまで協議を詰めて、極端にいうといつに手をあげれば、こう開発やりますからということを手を挙げれば、次の経営戦略に盛り込んでもらえるようになるのかというのを知っておかないといけないかと思ひます。次の見直しを、また乗り過ごしとですね、また5年だったりとかっていうような、ところで先送りになってしまうということを感じますので、こういったところをですね、今日でなくても結構なんです、どういった形で次回の見直しに盛り込むのかといったような具体的なところですね、また、おいおいで結構でございますのでお知らせ頂ければなというふうに思うところでございます。以上でございます。	答えられる範囲で答えさせていただきますと、まず6406ですね。6310がいきなり6406になった経緯でございますけども、経営戦略では、令和12年度までの16か所を見込んだ数字が6310だったんですよ。そして次の年すぐ事業認可変更というのをやってまして、そのときに、16か所の1年間、延ばしたら6310が6406になるという経緯でございます。あとどういうふうに見直していくかとかっていうのは、また後ほど内部で検討させてもらってから、正式回答でさせていただきます。
	まさにうちの内部でも、そういったところ、やっぱり水道事業者にしてみたら、はっきり言って全部開発事業者さんの意向だとか開発計画、これからどんどんどんどん出てくる可能性もある地域なんですね。そういったところを含めた中で、しっかり安定した供給ができるのかということを考えなきゃいけない、実際に合わせた形にしていかなきゃならないので、計画をつくってば、ちゃんとオーバーするような計画を最初からつくったってこれ何の意味もない話なんで、しっかりと計画を立てた中で供給ができる、そのために公共事業というのは土台づくり、ある程度のインフラ整備なんで、土台づくりをしっかりやることによって、そこに参入してくる民間事業者さんがいるわけであって、それをですね、最初からここはできませんっていうことができる地域なんですかっていうことを考えると、全然現実的に即してないので。そういった部分ですね、やっぱりおっしゃるとおりですね、開発計画だとか申請正式に出てくるレベルのものからですね、実はこういうことをやりたいんだけどもどうだろうかって言ったときに、いやいや水がないから、あるからとかっていう話は、なんかちょっとおかしいんじゃないのかなって個人的にも思ひます。ですからそういった部分をしっかりと、どういった内容で把握するべきなのかも含めてですね、これから進めていきたいと思っておりますし、この回答の中では7年度8年度って言うてるけれども、下調べ的な情報収集っちゃうのは明日からでもできる話なんで。今できてる情報だけではなくて、その辺の整理というのをですね、これから随時進めていくという話を内部ではしてましたんで、補足させていただきます。

質疑応答(令和6年4月10日 2回目)	
当日の質疑	当日の回答
もう再三、質問が出ているかもしれませんが、ちょっと、ここの場所っていうのは、もう変わる要素はないということですか。 それから、もし変わる要素がないんだとしたら、100台ぐらい駐車ができなくなる。皆さんも御存じだと思うんですけども、ここは本当に、もう年々レンタカーが増えてきているという中で、お客様が利用しづらい場所になってしまっっては、やっぱりひらふ、いくらいい施設ができて、お客様が嫌気を差してしまうんじゃないかなっていうのを実感として感じてます。その100台減るっていうことは、本当にこのエリアではある意味死活問題なんじゃないかなと思ってます。その辺に関して、代替案とか、ほかに例えば駐車場スペースをつくるとかそういう考えがあるのか、この2点お聞きしたいです。	配水池の場所でございますけれども、災害時の1番有効なということで、前のほうに設置したいと思っております、ここでの設置を強く水道のほうとすれば、考えております。
	2点目の駐車場の代替地の関係。100台程度減るということでどうするんですかという御質問に、私のほうからお答えさせていただきます。 現在テニスコート、250台程度の駐車可能スペースがこの施設を建てることにより100台分のスペースがとられるということからですね、今考えている、調整を図っていることはですね、まずこのヒラフのエリアの町が所有してる駐車場については、従業員の方も結構停められております。それで、この従業員の方々を、このスキー場からちょっと離れた場所に駐車場従業員専用の駐車場を設置して、そこからのバス、要は無料循環シャトルバスをうまく活用しながらですね、ひらふ坂エリア周辺、要は働く宿泊施設等に運びながら、まず従業員の駐車を減らそうと。 あわせて、サン・スポーツランド、これ冬期間従業員の専用駐車場ということで始めましたが、当然、一般のお客様も停めていらっしゃる。それと昨年につきましては、食事の提供が足りてないということで、観光協会などもキッチンカーのそういうブースをつくりながら運営しておりましたが、こちらをですねまた元に戻しながら、全て駐車場として使用することで、40台程度は、また確保できるだろうというようなこともございますので、その辺もあわせて進めていきたいと。 さらにそれでも足りない部分っていうのは当然ですね、町有地というのはそんなに余っておりません。会社とか個人でお持ちの空いている土地を何とか有効活用させていただくようなことですね、今年の冬に向けて、今、進めているところでございます。以上でございます。
ここの場所に決定するにはそれなりの討論されたと思うんですけども、ヒラフエリアで駐車場が足りてないっていう状況とかも含めて、例えば役場の人がぼんと決めてしまって、それがおろされてくるような状況だと、ヒラフエリアで働いてる仕事をしてる側としては、とても不都合なことが生まれてくるんですよ。その辺、この先、もうちょっと、考えていただきたいなっていう気持ちがあります。住んでる者として。	今回のこの進め方、地域へ対する説明が極端な話ないままにここまで来てしまったということは、冒頭町長のほうからもありましたとおり、深く反省しているところでございます。 当然この後ですね、第1駐車場の整備や、また第2駐車場についても、例えば水道施設ができた後どうするのか、当然100台足りないのはずっと続きますから、仮にその場所で現在の駐車台数を確保するとなれば、立体駐車場とかも、やっぱり考えられます。それも、当然、町としてまず構想考えたときに、当然、地域にですね、御説明をして意見をもらって進めると、これ当然基本的なことだと思いますので、それに限らずですね、町で進める大きな事業、これらについてはやはり、皆様と意見を交換し、全くね、町の言ってることっていうか、皆さんと全ての方との合意がとれるとは思っておりませんが、やはりある程度の合意を得た中で進めていきたいと考えております。

質疑応答(令和6年4月10日 2回目)

当日の質疑	当日の回答
私たちはずっとここに住んでるもんですから、ずっと昔の断水があった時のことも経験しておりますので、水は本当に必要なときに来てもらわないと困るってのはすごいよく分かるんです。これからそういう開発していく中で、やっぱりそういうものを見越してやっていくってのはすごい大切だと思ってるんですけども。一つ思ったんですけど、やっぱりこの辺の開発されるスピードっていうのは、結構すさまじい勢いで、毎年毎年持ち上がってきてるんですけども、倶知安町としては、そこは全部足りなくなったら随時随時、そこを増やしていくなり、これ増えていくと今度また下水道の話にもなると思うんですけども、それってワンセットで考えなきゃならない。そうなると、町のインフラ整備の負担っていう額が、確かに冬の観光客が来ているのが町のすごいメリット、強みというので、多大な恩恵を受けていますけども、その3か月のために、見合うだけのこういう整備をですね、この1万4000程度の町でどんどんそういうニーズにどんどんこたえていくという方針でいるんでしょうか。 いろいろ会議、顔を出させてもらってますけど、やはりいろいろな人の声から、そろそろ、その地域に見合った上限を決める、決めるというのはこちらから押さえつけるわけじゃないですけども、何かそういう物を決めていかないと、最後に、何ていうんすかね、デメリットを受けてめきなきゃなんないのは地元の自治体になってしまうというのが1番怖いんです。倶知安町としてはその辺はどのような、これから先の未来はどういうどういう感じでいこうとしているのかを再度。いろんなところで説明されてると思うんですけども、ちょっとお聞きしたいと思って、今日町長もいらっしゃるんで、よろしくお願いします。	まさにですね、そういった不安というものを抱えながら、これまで来てたと思いますし、ここがリゾートつつゅうかスキー場ができたときからですね、そういったところでの繰り返しをずっと重ねてきてるのかなと思います。本当に宿がまだ何軒かしかなかった時代から含めて、この地域等の変わってると思います。確かにこのたった5年間の中でも、コロナ禍にあったにもかかわらず、ベッド数がこのひらふ地区だけで4000以上増えているはずなんです。それを考えると、とてつもない規模でスピードで上がってきている。 昔からそうだった、最初始めて上水道ここに引っ張られたとき、下水道引っ張ってきたときも含めてですね、大きな変遷を繰り返しながら増強しながらきているという歴史があります。 ですから本当に、いつまで、上限って、リミットってないのっていうところっていうのは、当然抱えながら、片目でちゃんと見ながらっていうところで今までは来てたと思いますし、この先どうなんだろうってますます不安になってきている。私たちみんなそういう思いをしておりますし、プレッシャーを抱えながらきています。 水道に限って言えば、法律的に給水区域が設定されちゃってるもんですからね、昔から。その中では法的には、供給しなければいけないというのが大前提になる。そういったところもある中で、しかしながら、必ずしもというか、今回みたいに、実は先を見越しての新設じゃないんですよ今回ね。当然ながらも足りなくてあつぷあつぷ状態なんで、急いでつくらなきゃならない。でも作るのにも結構時間がかかっちゃったりっていうところの中で、今回の計画ができていうことはまず御理解を頂きたいと思いますし、一つ事業を動かすにしても、計画っていうものがあって、倶知安町の単独のお金だけではつくることができないで、国からも支援していただいたり、お金を借りながらやっていくっていうのがこの公共事業のことなので、大変手間暇かかる。時間とろとろ何やってんだらうっていう、やってるうちに全然追いつかないぐらい、足りなくなるんじゃないかっていう不安も同居しながらですね、今やってるっていう状況なんです。 そういったところも含めて、インフラ整備にどれだけニーズに応えていくのかということでの一環もあったので、去年の10月に景観法に基づいた制約というのを見直し入りました。これによって強制的に、もう開発、もう家建てたら駄目です、宿泊施設建てたら1軒も駄目ですよこのニセコひらふはって、いうことができないもんですから、そういった形でのあるべき、何でもかんでも開発開発でオーケーですよじゃなくって、より質の高い開発を進めていきましょう。今あるところを、古くなったらちゃんとリノベーションするなり新しく生まれ変わらせ、しっかりとそういった質をキープしながら、リゾートとしての成長を重ねていきましょう。 むやみやたらにこの土地、市街地のね、ひらふ坂から遠く離れてるから、地価が安いからどんどんどんどんそこを買っちゃえ、そして開発しちゃえていうことを可能な限り、そういった土地の利用の仕方の制約の中でやっていくことによって、むやみやたらにそういったものができて、しかもそうやってやれば、また道路を引かなきゃいけない、水を供給しなければならないという危険性を伴うわけですから、そういったちょっと、ずる賢いしたら変ですけど、間接的に何とかこうこの地域をあるべき姿に実現していくっていうことを、あの手この手でやっていくしかないのかなというふうに考えています。ですから本当に歯切れの悪いというか数字的にね、例えばある国によれば、最初っから国がプロジェクトとしてこっからこままでのエリアの中で開発をするので、スキーリゾートとしてするので、上限はこれだけにします。これ以上増やさないようにしますっていうことはできるかもしれませんが。計画経済というか計画的なね、プロジェクトであれば。ですけれどもここは昔からこうやって混在しながら、そういった制約もないままに発展してた地域でもあります。そういった特性も踏まえた中で、これから、過去現在、そしてこれから未来に向かってどうやってやっていくのかというのをみんなでこれから、もっともっと構築していきなきゃならないときなんだろうなというふうに思っております。

令和6年4月10日開催 新中区配水池新設工事説明会 質疑応答	
質疑応答(令和6年4月10日 2回目)	
当日の質疑	当日の回答
今回はこの貯水池の説明会なんでちょっと話がちょっと飛んじやったかもしれないんですけど、これやっぱ関連していくことですので、なんでしょう、そういう、これから先のそういうことをどうやってコントロールしていくかっていう、そういう考えなきゃならないとかそういう話し合いというか、いろんなアイデアというかそういうの出してくる人はいるんですけども、やはりそういう、会議ってなるとでかくなっちゃうんで、もう少しその辺の先のこともこれから、この騒動があったのも、やはりちょっとそういう会話が少なかったからだと思うので、ここから先ちょっとそういうのも企画というか、場所を設けてもらいたいっていう要望をちょっとお伝えしたかった。もう一つなんですけども、こちらの貯水池に関してなんですけども、やはりその必要なのはすごい分かりますので、これから進めていくにも、工事をなるべく順調に進めていきたいというのは非常によく分かるんです。ただやはり、最初僕らも、奥のほうっていうのは本当にずっと思っていたので、寝耳水のことだったので、ちょっと困惑してる人たちはやはりこれはいらっしゃるですよ。そういった中でいろんな代替案というか、ちょっと調整をこれからするに当たって、町としてはどのくらいの、このスケジュールを見たらもう、すぐにでももう調査っちゃうか実施が始まると思うんですが、どのくらいもう、何でしょう、遅れるったら変ですけども、地元の人たちとの調整っていうのは、考えられるんでしょうか。	はい。実のところ今年ですね、くい打ちまでどうしてもやらないと、もう遅れてしまうってのは分かっている、こっちの考えとしても6月にはもう工事にかからないと、今年終わらないなっていうのが今のところですよ。
前の説明会のときで建屋を少し場所、先ほども言われましたけど、変えてはどうかという話で、検討中とありましたが、この辺の回答というのは、もうすごい急いで出してくるってことですか。。今までのあれでいくと、もう時間が迫ってきてそのままはい説明しました、やっちゃいますっていうことが多いんで、そうなるとわだかまりを残したくないんですよ。僕は、いろいろ何か出させてもらって、大体、（聞き取れない）と思っちゃう面もあるんですけど、そういうのをよく思わない人もいるから、それで、町とその地域の人たちとのほうになんかわだかまりをつくりたくないんですよ。前のときに遡っていきますけど、ひらふ坂のほうの町有地を売却した件があったと思うんですけど、あのときもその町から説明を受けて、僕らも説明を聞いていなかった人たちに、あれどうなってんだっていうのを、町内会のほう、そういう会計っていうかそういうやってますから、聞かれたらやっぱそういうのを答えたりなんざりしてたんなんですけども、そのときはその町有地を売却しちゃって、うちのこの辺にちゃんとしたそのセンターになるもの、建物をつくって、やっぱり今そういうのは、スキー場としてはあったほうが絶対いいから、協力、そこを協力して、町としても建ててくれるのならいいじゃないかって、そうやって説いて回った側なんですけど、いろいろ事情は分かりますけども、やっぱ頓挫してしまっ、そんな話もなくなり。今回、そしてこのなんでしょう、こちらとしても、もう駐車場というか車がすごい多くて困っちゃっている話が、渋滞そうですけども、そういう交通面ですごい、どうしたらいいんだっていうのを頭抱えてる上で、今度またその駐車場がなくなると。何か悪いことっていったら変ですが、大変なことになることばかりで、こちらのほうに、そういうふうなつくってもらえるよとか、そういうふうになんかギブアンドテイクじゃないですけども、そういう大体それに対策するものが何かははっきり出てこないですよ。今日初めて立駐も考えてっていうの聞けて、少し考えてくれてんだなあと思ったんですけども、何かその、同時進行でこちらの悩みを解消してる、もうちょっと明確なはっきりした、代替、対策っていうのをもう少し、考えてもらいたいなあと思ってんですが。	今回当然ながらですね、今、既存の駐車場を一部、これに充てるっていうことなので、当然ですね普通この計画があるならば、その代わりじゃどうするんだっていうのが同時進行ですね、進めていくのが当たり前っていうか、普通そうじゃないかなと思うんですよ。ですけども残念ながらいろいろな事情があって、しかも国定公園だっているところもありね。いろいろあるんですよ。なぜならばあそこって国定公園の中のスポーツ施設ということで認可をもらってるんですよ。その話をするとき今ちょっと長くなっちゃうんではしよりますけれども、いろいろなものが絡み合ってますね、なかなか同時進行できなかったっていうのも言い訳としてあります。ですけれども本来は今使ってる駐車場の一部使うんだから、減っちゃうし、しかも今足りてないって言うてるのに、何でそんな逆みたいなことをするんだと。はっきり言ってこれどなたでもですね、悪い連想の連鎖ですね、何だこれって思っちゃうのが普通じゃないかなっていう、僕も思いました。思いましたけれども、実際そういった形での説明会だとか、皆さん意見のやりとりだとかっていうのが、この時期になってしまったっていうところなんですね、一番切ないのはね。本来はそうじゃないよっていうところ。過去にもあったかもしれないですけども、いずれにしてもですね、公共って本当に何か切ないなっていうところ。もっともっと本来は、そういった地元地域という話し合いながら物事って進めていかなきゃならないし、だからこそ時間がかかるんですよ。時間がかかることを惜しまずにやらなきゃならないのに、はしょった中で、計画だ、補助金がついた、体とか何とかっていう理由でですね、役所ってしがちなんですよ。だからそういったところっていうのを少しでもなくするっていうのは、我々も本当にこれからの課題でもあるし、地域の皆さんの協力も頂くという前提の中で、やらないとならない。だから、そういった御意見をもらうかわりに自分たちでもらわなきゃならないこともたくさん出てくると思うんですよ。だからそういったのが一番理想的な、物事の組立てだと思ってますので、引き続きですね、何とか、もう今後そういうしたことにならないような形っていうのを、私たち誠意を持って進めていきたいというふうに思います。
	今日初めてこられた方もいらっしゃると思うし、またこの説明会でですねいろいろ今、最初冒頭説明したように、当初の計画から、可能な限りこの場所っていうのは、今時点では、やっぱりここが一番効率的ですし、一番皆さんの給水に関して言えば、ここが最高に1番いい。何かあったとしてもメンテナンスやりやすいですし、どっか敷地、山奥っていうか角っこだとかっていうこともありうるんでしょうけれども、そのためには建設コストもかかるし、万が一何かあったときには、そこに行くにも大変だ。そしたらばはっきり言って水ってすごくインフラの大基本的なですね、ところだと思うので、住んでらっしゃる方だけではなくて、観光客たくさんの方々が来ている中ですね、そういったところを安全、確保するという部分では、可能な限り水道事業者としては、より担保できる場所でも安全確保しかりできるようにとやりたいというところはですね、目指さなきゃいけないということだけは御理解を頂きたいと思っております。それで、今後ですねこれからの話になりますけれども、実はこの説明会というか、この計画について、観光協会ははじめですね、3団体から要望書が上がってきていただいておりますので、そういったところもある関係も含めて、さなる、メインとなるのは第2駐車場をいかにして、皆さんのストレスなくより逆にですね、よりいい形で、オールシーズン通した中で、違和感ない、むしろいいんじゃないのっていう溶け込むような形での設計の仕方、利用の仕方っていうのを目指した中で、その3団体と町とですね、最終的な、この辺、何とかならないの。ここまではできるよ、だけどここまではできないよねっていうところをやりとりしながらですね、最終的に事業を先に進めていくっていう形で話を持っていきたいなというふうに思っております。そういったところ、今日皆さんですね参加していただいております方々、御了承頂けたらなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。